

SC活用十ビ

〔チーム学校編〕



心の専門家であるスクールカウンセラーは、
「チーム学校」の一員として、
教育相談、生徒指導の充実のために活動しています。

Q1 効果的なSC活用には、どんなポイントがありますか？

Q2 児童生徒の不安や悩み、問題行動等を解消するために、SCをどのように活用すればいいですか？

Q3 相談活動以外に、どのような活用がありますか？

Q1 効果的なSC活用のための、ポイントはありますか？

A1 **全ての教職員がSCの役割などについて共通理解**できるように、教育相談担当教員が校内の教育相談体制の要となりましょう。

全ての教職員で共通理解しておくといふこと！

○ 学校の現状と課題

- ・ 児童生徒の様子
- ・ 気がかりな児童生徒へのこれまでの支援と課題

○ 教育相談体制

- ・ 学校内での指導や支援の方向性
- ・ 具体的な組織の在り方（ねらい、役割、方法）
- ・ 教育相談担当教員との連携

○ SCの役割

- ・ SCができること
- ・ SCとの連携の仕方



効果的な活用

見立てる

SCと気になる児童生徒の情報を共有します。その児童生徒の心や体の発達などの状態を見立ててもらい、今後の対応について方針を確認したり、修正したりしていきます。

支える

会議（職員会議、ケース会議、不登校対策委員会等）に参加してもらい、専門的なアドバイスをもらいます。

つなぐ

相談しやすい状況をつくるために、児童生徒や保護者等に積極的に関わってもらい、SCの存在を知らせます。
また、小・中連携会議にも参加してもらい、気がかりな児童生徒の引継ぎをサポートしてもらいます。

Point

SCは「チーム学校」の一員です。教員とSCが積極的な情報の共有を行い、児童生徒や保護者とSCがつながることで、課題の早期対応を図ることができます。ただし、教育相談の主体は教員です。SCに全てを任せてしまうのではなく、組織として課題に対応していきましょう。

教育相談担当教員の役割

○ SCの存在の周知

- ・児童生徒や保護者に、SCの役割や相談日等を周知しましょう。
- ・教育相談室の整備等、誰もが相談しやすい環境づくりをします。

○ SCのスケジュール調整

- ・SCの勤務状況を踏まえ、適切に計画しましょう。

★相談活動で、SCの勤務時間が終わっていませんか？

教職員との情報共有や課題への対応策について考える時間も確保することが重要です。余裕のある計画をしていきましょう。

○ SCとの情報共有

- ・個人情報の保護等に配慮した集約と管理を行います。
- ・SSWとの連携を図る役割もします。

○ 気がかりな児童生徒の情報収集

- ・各教員から気がかりな児童生徒の情報があがるように工夫しましょう。
- ・定期的な会議に加え、日頃からの教職員間の情報共有が大切です。

○ 児童生徒や保護者、教職員のニーズの把握

- ・それぞれがどのような課題を抱え、どう捉えているのか、今後どのようにしたいのかなど、ニーズの把握に努めましょう。

○ ケース会議の実施

- ・児童生徒の抱える課題について、学年団や校内全体でのケース会議を企画しましょう。
- ・必要に応じて、関係機関を含めたケース会議を実施します。

○ 校内研修の実施、児童生徒や保護者への授業や研修の実施

- ・教職員の教育相談のスキル向上を目指した研修等を企画していきましょう。
- ・児童生徒の人間関係づくりに関する授業、保護者を対象とした研修講座などを企画することも重要です。



教育相談担当教員は校内連携の要！

Point

SCに児童生徒や保護者をつなぐときには、担任からの情報や児童生徒の観察記録、保護者の様子、関係機関での診断結果等を、事前に伝えておくことで、相談活動がスムーズになります。

※教育相談担当教員での対応が難しい場合は、教務主任や教頭に依頼しておくことも方法のひとつです。
※SCに児童生徒や保護者をつなぐ際は、事前に児童生徒や保護者の了解と理解が不可欠です。

Q2 児童生徒の不安や悩み、問題行動等を解消するために、SCをどのように活用すればいいですか？

A2 SCに児童生徒の様子を積極的に見てもらい、SCの専門性を活用して指導や対応の方向性について一緒に考えましょう。

気がかいな児童生徒の諸課題を担任一人で抱え込んでいませんか？



- 授業中に勝手な行動をしてしまう。
 - 友達とうまくいかない、すぐに暴力をふるってしまう。
 - 欠席する日が増えてきた。
- など

◆SCに相談し、児童生徒の様子を見てもらいましょう。

- 授業中
- 休み時間
- 給食や掃除の時間
- 学校や学年での行事 などの様子

見てもらうチャンスは、様々な機会があります。事前に、教育相談担当教員に伝え、SCのスケジュールに入れてもらうとよいでしょう。



SCや他の教員の間で、日頃から雑談や対応報告をするなど、短時間の情報交換の積み重ねが組織的な対応につながります。

Point

SCからの情報を、担任だけで抱えこまず、他の教員とも共通理解し、指導や対応の在り方を確認し、役割を分担するなどして組織的な対応をしましょう。
※児童生徒や家庭が抱える諸問題に対しては、スクールソーシャルワーカー(SSW)や他の専門機関との連携もしていきましょう。

Q3 相談活動以外に、どのような活用がありますか？

A3 教員のスキルアップを図ったり、児童生徒の人間関係づくりに関わる活動をしたりするなど、**未然防止に関する活動**をすることができます。

学校の課題に応じ、目的を明確にした研修を！



- 児童生徒理解に役立つ専門的な視点に関わる研修
- 具体的事例に基づいた対応の在り方についての研修
- 発達障害に関する研修 など

◆「心の専門家」としての見方や考え方を生かし、様々な場や機会をとらえて実施しましょう。

【教職員に対して】

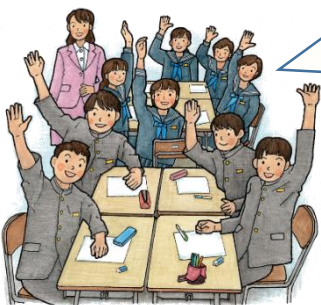
長期休業中の研修、短時間で数回に分けて

【保護者に対して】

講演会、学級や学年PTA 等



児童生徒への「心の教育」の一環として！



- 生活アンケートの実施とその分析などのサポート
- 人間関係づくりに関する授業のサポート
- 「SOSの出し方に関する教育」の授業のサポート
- 中学校進学に向けた心の準備に関する授業のサポート
- 中学校進学前の個別面談、グループ面談 など

授業のサポートでは、事前だけでなく、実施後のSCとの相談も重要です。児童生徒に対する支援の在り方についてのアドバイスをもらうことが、諸課題の未然防止につながります。

Point

SCを活用するアイデアや機会は、各校の実態により様々です。実態に応じて、取り組みたい研修や活動についてSCに相談しましょう。そして、一つの学級だけでなく、学校全体で取り組むことが効果的です。

※SCが学校の様々な教育活動に参画することは、SCを紹介する機会になり、相談しやすい関係づくりができます。